

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年7月31日

認定こども園さくら幼稚園・さくら保育園

## 1、 教育・保育目標

### 心身ともに健康な子どもを育む

～つよいからだとただしいところをもったよいこの育成（生きる力の基礎）～

## 2、 教育・保育の方針

### 4Hの保育

【頭（HEAD）考える力を育む保育】

【心（HEART）心を育む保育】

【健康（HEALTH）健康な心と身体を育む保育】

【人間関係（HUMAN RELATION）人との関わりを育む保育】

を通して、生きる力の基礎を育成する。

## 3、 目指す子ども像

◎生き生きと遊ぶ子ども ◎元気な子ども ◎心やさしい子ども

## 4、 令和5年度重点的に取り組む目標・計画

ア、職員の連携の充実とメンタルヘルス対策

イ、保育内容、保育計画の充実

ウ、職員の安全管理意識の向上

エ、保幼小連携の推進

## 5、 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
ア	職員の連携の充実  メンタルヘルス対策	C  C	<ul style="list-style-type: none"><li>毎月の主任会を充実させ、それぞれの立場で保育や行事の取り組み、課題点などに向けて話し合いを行うようにした。それぞれの学年の状況や育ちなどを共有する場にはなったが、それを理解した上での連携はまだ不十分だと感じる。主任間で情報共有したり助け合ったりしながら、保育運営を円滑に行える体制の工夫が必要だと感じる。</li><li>保育の行き詰まりや人間関係に悩みをもつ職員も増えている。メンタルヘルス対策の充実を図るため、産業保健センターの支援事業などを活用し、管理職のメンタルヘルス研修や教職員へのセルフケア研修を行った。また、個人の自己評価と併せて職員全員の面談を行い、個々の悩みや思いを出せる機会をもつようにした。</li></ul>
イ	保育内容、保育計画の充実	B	<ul style="list-style-type: none"><li>昨年度に引き続き「よく見て、よく聞いて、よく考えて行動する子ども」の育成を本年度の重点に置き、保育者の記録を生かしながら振り返りを充実させていった。</li></ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>• 目指す子ども像を「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている3つの資質・能力に合わせた3つの視点に組み直し、保育者が評価を行いやすいよう工夫した。</li> </ul>
ウ	職員の安全管理意識の向上	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 県内外で起こっている園バスの降ろし忘れや不適切保育などの事件を受け、全職員で今一度安全管理体制について再確認する場をもった。県の安全管理研修を全職員が受講し複数で何重にも確認することの大切さなどを学んだり、人権擁護のためのセルフチェックシートを用いて日々の自分の言動について振り返ったりし、すべての職員が安全意識をもって日々職務にあたることを共通理解した。また、園バスにも安全装置やドライブレコーダーなどを装着したりマニュアルの見直しなども行ったりし、安全管理の徹底を行うようにした。</li> </ul>
エ	<p>面影小学校校区で互いの保育や教育の理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 年長児と面影小学校 1年生と5年生との交流</li> <li>• 白ゆり保育園年長児との交流</li> <li>• 小学校教諭の保育体験など</li> <li>• 合同の職員研修会</li> </ul> <p>• 架け橋期のカリキュラムの作成</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 5歳児が運動会練習の見学や生活科の単元に合わせた水遊び、夏休み中に学校探検など、無理のない形での交流を通して、子ども達は小学校への興味や期待が高まった。</li> <li>• 今年度の新たな取り組みとして、白ゆり保育園との交流を年2回行った。園のグラウンドや面影地区体育館などを利用し、交流を深めた。同じ小学校に行く友達がいることが分かり、親しみをもって一緒に遊ぶ姿が見られた</li> <li>• 小学校教諭による保育体験や管理職がお互いの行事や研究会などに参加したことなどを通して、幼児理解や学校生活の理解につなげることができた。また、合同研修会を実施し、幼保小の先生が混じったグループでの討議を通して、お互いの子どもの様子や10の姿に向けた育ちなどについて話し合いを深めた。</li> <li>• 昨年度で接続カリキュラムは一旦作成ができたが、新たに示された架け橋プログラムにより、5歳進級時から1年生の終わりまでの2年間を見据えた架け橋期のカリキュラムの作成に取り掛かっている。</li> </ul>

A=達成できた B=80%程度の達成度 C=60%程度の達成度 D=30%程度の達成度

## 6、 総合的な評価結果

結 果	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 個々の保育士が学年の目指す子どもの姿に向け、日々記録をとったり振り返ったりしながら保育の充実を図った。また、学年間で子どもの育ちについて話し合う中で、目に見える姿だけではなく、「子ども達が何を楽しんでいるか」「どういう力が育ってきているのか」など、3つの資質・能力に視点をあてて内面を読み取ろうとする力も育ってきているように思う。</li> <li>• 子ども達は、様々な活動に取り組む中で周りの環境に目を向け「やってみよう」と意欲的に取り組む姿や発見や工夫を楽しみながら考える姿など、見たり考えたりする力は育ってきているように思う。また、友達と思いを伝えあう中で相手の話を聞こうとする姿や思いを共有しながら一緒に遊びを進める姿も見られるようになった。</li> <li>• コロナが5類になり、行事なども少しずつコロナ前に戻してきた。しかし、コロナ禍のやり方のいい面もある。子どものために何が一番必要なのかを考えながら、コロナ前、コロナ禍のいいとこ取りをしながら行事運営を行っている。</li> <li>• 幼保小連携の体制が確立し、各担当が連携を取りながら進めることができている。</li> </ul>

A=達成できた B=80%程度の達成度 C=60%程度の達成度 D=30%程度の達成度

## 7、 今後取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
1、	職員の連携の充実とメンタルヘルス対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>園全体の職員の状況を考えて、学年間を超えて助け合おうとする気持ちは見られるようになってきているが、まだ定数以上の職員がいることが当たり前という意識の職員も多い。社会的に保育士の人員不足が進む中、定数の職員体制の中で保育を行うことを前提とした保育や生活の流れを工夫して、色々な状況に柔軟に対応できる職員体制を確立していきたい。</li> <li>職員間の話し合いの場などがなかなか取れない状況の中、仕事や人間関係に悩む職員も増えている。職員同士のコミュニケーション研修や何でも相談し合える関係づくりを行っていくことが必要である。</li> </ul>
2	職員の安全管理意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在もヒヤリハットの共有、安全管理や不適切保育に関する研修などを行っているが、職員一人一人が自分のこととしてさらに意識できるよう、研修や振り返りを充実させていきたい。</li> </ul>
3	保幼小連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士、小学校教諭がお互いの保育、教育を語り合い、理解し合うための職員同士の交流や研修の機会を充実させていくことが必要だと感じる。その上で架け橋プログラム作成に向けて検討する場ももって行きたいと思う。</li> </ul>

## 8、 学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日楽しんで登園し、その日あったことを話してくれる。色々な経験をさせてもらい、できることや知識がどんどん増えていて嬉しい。</li> <li>担任の先生が子どものことをよく把握してくれていて安心して預けることができる。</li> <li>園だよりやクラスだよりなどに写真が使用しており、子ども達の様子を見ることができるのでありがたい。もう少し気軽に普段の様子が分かるシステムがあるとよい。</li> <li>年齢関係なく、どの先生も子どもの名前を覚えて、笑顔で対応してくれるので雰囲気がいよい。</li> <li>入園前に「食事にこだわっている」と聞いて入園を決めたが、途中で外部委託に変わってしまったのが残念だった。</li> </ul>
---